

○ 日本人学校における学習上の配慮事項

(平成18年4月15日現在)

配慮事項	学校数	割合	例	示
チームティーチング	44	51.8%	○英語活動をTTで実施：小3・小4：週2回の英語活動をネイティブスピーカーと派遣教員によるTTで実施。 ○小1・小2：国語科週5時間のうち、3時間で2人の教師によるチーム・ティーチングを実施。等	
習熟度別指導	36	42.4%	○全学年：英語の語学力においては入学時における個人差が大きいため、英会話の授業では個々の能力に応じて習熟度別のクラス編成で実施。 ○全学年：現地語の授業において、習熟度別のグループに分けて実施。等	
個別指導(学習面)	26	30.6%	○学習が遅れがちな児童：基礎学力が十分に身に付いていない児童に対して個別に指導。 ○日本からの転入学児童・生徒：ESLについて、本校の学習についていけるよう補習的指導を行っている。※放課後の補習クラスを実施。等	
少人数指導	15	17.6%	○教室の収容人数からの課題もあるが、15人前後の少人数に押さえ、指導の際できるだけ個別指導を図るようにしている。 ○中1～中3：クラスの中で現地語選択、国語選択、数学選択、英会話選択、語学選択のそれぞれの授業で生徒の希望と習熟度により分け、少人数制での指導を実施。等	
日本語指導	15	17.6%	○(個別指導)：日本語の不十分な児童生徒に対する「日本語教育室」等	
学力の定着(国語・数学等)	10	11.8%	○希望生徒：学習相談という名称で、国語、数学、英語、社会、理科の5教科について生徒の希望に応じ個別指導を実施している。 ○チャレンジタイム：小1～小6：学級の実態に即して、基礎基本の定着および発展学習能力を養うために、国語科・算数科を中心に週1時間実施。等	
適応指導	9	10.6%	○心身障害児に対する適応指導。	
複式(縦割り学級編制を含む。)	9	10.6%	○全校音楽(週1時間)、読書(小学3・4年)、体育(前期：(小学1年～5年・小学6年、中学1・2年。後期：全校能力別水泳授業)、道徳(小学3・4年、中学1・2年)等 ○生活科、算数科、音楽科、体育科等の授業において、学年合同の指導が効果的であると判断した場合、複数教員で指導にあたる。等	
教科担任制(小学部)	4	4.7%	○小学部中学年からできる限り教科担任制を導入し、基礎基本だけでなく、発展的な学習を取り入れている。等	
運動	3	3.5%	○放課後運動：希望者：(治安上)帰宅後外で遊ぶことができない児童生徒の運動能力、体力向上のため月曜日と金曜日の放課後に小学部・中学部で交互に運動の時間を設けている。等	
少人数又は個別指導による英語・現地語学習	3	3.5%	○英会話や中国語会話の指導では、習熟度別にクラス編成を行い、少人数で指導している。等	
イマージョン	2	2.4%	○図工：小2：英国人教師が英語で教え、日本人の教師がアシスタントティーチャーとして教えている。等	
読書	2	2.4%	○読書指導：全学年：日本語にふれる機会の少ない子どもたちに対して、読書を通して、日本語の文章にある日本語のもつ、微妙な、美しい表現にふれさせる。毎朝の15分間を読書の時間とする。等	
カウンセリング	1	1.2%	○不適応の児童生徒：教育審議会教育相談室のカウンセリング専門家と連携を図り、子どもの健全育成を図っている。	

※ 学校数は延べ数である。